

ドイツ観光局からのお知らせ

楽しいドイツがやってくる！

東京一日比谷シティにドイツ大テント出現

第11回ドイツ旅行展

5月25日(日)～6月1日(日)

ドイツ観光局は今年も一般消費者向けのビックイベント「ドイツ旅行展」を日比谷シティ(東京)で開催します。会場となる大テントには、ドイツ東西南北の各地観光局ブースが並ぶほか、日本の旅行会社5社がドイツ旅行商品を紹介します。エルツ山地の木工師、磁器絵付師、ジンジャーケーキ絵付師などの実演があり、ステージでは民俗音楽からテクノまで、人気ミュージックグループによる多彩なパフォーマンスが披露されます。本場ドイツから直輸入したビール、ワイン、各種ソーセージ等で「美味しいドイツ」をご堪能ください。テントの外には今話題のドイツ車が勢ぞろいします。皆さまお誘い合わせの上、是非ご来場ください。

【時間】11:00～21:00(5/27は18時まで)

【会場】東京一日比谷シティ

ドイツ大テント(25mx21m)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3
(日比谷国際ビル)

【アクセス】

都営三田線内幸町直結

千代田線 日比谷線 丸の内線

霞ヶ関駅より徒歩4分

JR新橋駅より徒歩6分

主催:ドイツ観光局

後援:ドイツ連邦共和国大使館

協力:ルフトハンザドイツ航空

湘南日独協会 2003 年度活動予定

2003年は湘南日独協会・創立5周年を迎えます。

■6月28日(土)会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fローズルーム

■8月2日(土) 18:00～

湘南の夏を彩るビアイベント

ドイツフェア

会場 藤沢市民会館第1レセプションホール

出演 楽団「シバルベ」/乃羽バレエ団

湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」

会費 5,000円(ドリンク代別料金)

■8月23日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fローズルーム

■9月27日(土) 第29回例会

演題 「くるみ割り人形」の話(仮題)

講師 宮下啓三氏(慶応義塾大学名誉教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fロータスホール

■10月25日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fローズルーム

■12月20日(土) 湘南日独協会創立5周年記念

《バレエ公演》 於:藤沢市民会館大ホール

くるみ割り人形

出演 乃羽バレエ団/湘南エールアンサンブル

湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL 5 . NO. 3 . 通巻27. 発行 2003.5.24.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局:〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

No. 27.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第27回例会

■5月24日(土) 午後3時開演

演題 ドイツ プロテスタンティズムと経営者

ーフランスとの比較

講師 吉森 賢氏(横浜国大教授国際経営学部長)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2Fロータスホール

【講演要旨】

- ドイツの経営者はプロテスタント信仰者が多い
- プロテスタンティズムとカトリシズムの経営、経済活動への影響
- プロテスタント経営者が資本主義経済を強くした?
- ドイツ経営者の労働感
- ドイツ経営とフランス経営の比較

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

6月の会員懇話会は

6月28日(土)です。

会場はホテル法華クラブ2Fローズルームです。

午後6時から。お誘い合わせお出かけください。

当日の卓話は松野義明氏。テーマは

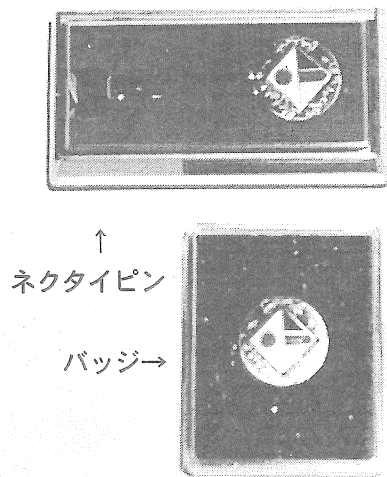
「この夏、湘南で停電はあるか」

原子力発電をめぐる話題を話し合います。

参加費は無料。飲食費は各自負担となります。

日独協会 全国統一の バッジとネクタイピン発売!

かねてより計画がすすめられていた全国統一の日独協会バッジ及びネクタイピンが出来ました。これからの例会や会員懇話会の折に受付で発売いたします。必要な方はどうぞお買い求め下さい。価格はバッジ、ネクタイピンともに価格は1個500円です。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

合唱団「アムゼル」 団員募集!!

昨年の忘年パーティを機会に湘南日独協会に混声合唱団が発足しました。ドイツの歌や日本の歌をドイツ語で歌うのがこの合唱団の特徴です。毎月藤沢カトリック教会で練習を行っています。この機会に合唱団「アムゼル」にご参加になってはいかがでしょうか。

団長は狩野博美氏、指導は毎年のドイツフェアでお馴染みのソプラノ歌手梶井智子さんです。

お問い合わせ 水谷妙子 TEL045-895-6845

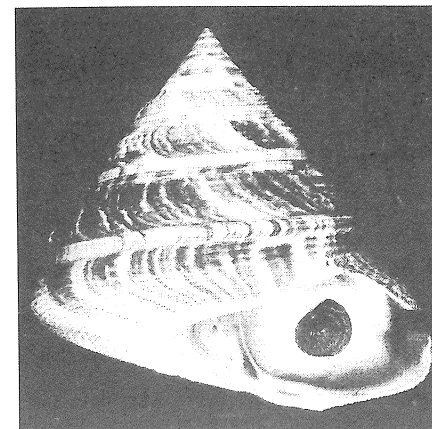
湘南とドイツ⑥

長者貝異聞

吉田克彦

長者貝と呼ばれている大きくて美しい見事な巻貝があるのをご存知でしょうか。和名でオキナエビスと呼ばれるこの貝は二億五千万年も昔に栄えた原始的な貝です。栄螺のような蓋は持っておらず、開口部の横に深い切れ込みがあるのも特徴ですが、これは排泄のためだと聞きました。このように見えますとオキナエビスに比べて栄螺は可成り進化した巻貝だと言うことが分かります。郵便の4円普通切手でお馴染みのベニオキナエビスもこの貝の一種です。

この貝が通称、長者貝と呼ばれるようになったのは次のような経緯からです。明治6年3月2日イギリスの蒸気船マドラス号で横浜へやって来たドイツ人ヒルゲンドルフ(当時33才)はお雇い外国人教師として東京医学校(後の東京大学医学部)で数学と博物学を教えました。彼はドレスデン自然科学院の図書館長に就任していた時代にドレスデン工業学校の講師も務め、生物学の講義をしました。その時の学生の中に日本の地質学の父と呼ばれているナウマンも居ました。日本に来たヒルゲンドルフは教師として博物学・植物学・数学・幾何学・ドイツ学・地理学等の講義を行う傍ら、研究者として日本周辺の動物資料の入手に努めました。可成り専門的な採集を行っており、江の島沖の採集では、途中で暴風に出会い、船頭は引き返そうとしたのにヒルゲンドルフは船頭を説得して見事にホッス貝を手に入れた事もあったとか。不忍池、深川の寺、魚河岸や土産物屋も彼の絶好の収集の場所でした。ある日、彼は江の島の土産物屋でオキナエビスの貝殻を見つけました。そしてこれを学会に新種として報告しました。しかし、この時すでに西インド諸島で発見された報告が2件され



オキナエビス貝(長者貝)

ていて、ヒルゲンドルフの発見は世界で3番目でした。ヒルゲンドルフは初めてオキナエビスを「生きている化石」と呼んでいます。ヒルゲンドルフの報告によって大英博物館自然史部門は生きているオキナエビスに1個100ドル(当時の邦貨で約100円)という報奨金を付けました。

三浦半島の三崎にある東京大学臨海実験所の採集人であった青木熊吉さんが相模湾でこれを見事に採集して金30円也を貰いました。当時は三崎から東京までの船賃が10銭でした。ですから30円といえは家が建つほどの大金だったようで、この貝に「長者貝」の別名が付けられることになりました。それにしても、残りの70円はどこに行ってしまったのでしょうか?

ところでヒルゲンドルフは博物学の講義の中でダーウィンの進化論にも触れています。そのことはこの講義を受講していた森鷗外のノートから分かったもので、ヒルゲンドルフが日本に初めて進化論を紹介したことになります。ちなみにモースが日本で進化論の講義を本格的に行ったのは明治10年以降ですから、モースより4年も前の出来事です。

ともあれ、今は魚も貝も捕れなくなってしまいましたが、かつての相模湾は多種多様な生命を豊かに育む「豊穡の海」だったのです。

(参考「フランツ ヒルゲンドルフ展」冊子 1997)